

個人投資家向け会社説明会

三桜工業株式会社
[東証プライム：6584]





代表取締役社長 COO
竹田 玄哉(たけだ げんや)

経歴

- 1978年6月 茨城県古河市出身
- 2008年7月 ノースウェスタン大学大学院
博士課程（宇宙物理学）終了
- 2009年2月 当社入社
（中略）
- 2016年4月 COOに就任（現任）
- 2017年6月 取締役社長に就任（現任）

特徴

- 👉 伝統的な業界の中にあって年齢は40代と若く、
業界の常識に囚われない柔軟な発想
- 👉 天文学の博士課程という異色の経歴を持ち、
理系出身ならではの合理的な思考
- 👉 一昨年、1児の父となり、社長として育児休業
を取得する等ダイバーシティを自ら実践・重視

1

会社概要

2

自動車部品事業の紹介

3

中期経営方針（2024年度▶2030年度）

4

【新事業】データセンター向け水冷/液冷事業について

5

質疑応答

1

会社概要

2

自動車部品事業の紹介

3

中期経営方針（2024年度▶2030年度）

4

【新事業】データセンター向け水冷/液冷事業について

5

質疑応答

三桜工業は、どんな会社？

三桜工業は1939年に創業し、現在は東証プライム市場に上場しています。
 世界第2位（当社推計）のシェアを誇る車両配管を中心に、完成車メーカーに自動車部品を供給するサプライヤー（Tier1）として、グローバルに展開しています。

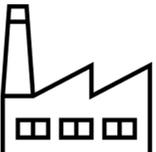
社名

三桜工業株式会社
 （登記社名：三桜工業株式会社）

本店所在地

茨城県古河市

創業



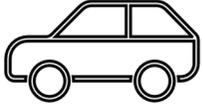
86年

上場市場



**東証
プライム**

業種分類



**輸送用
機器**

車両配管シェア
（当社推計）



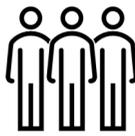
**グローバル
第2位**

拠点数
（2024年3月末時点）



**19カ国
82拠点**

連結従業員数
（2024年3月末時点）



7,915名

連結売上高
（2023年度）



1,568億円

取締役会構成
（2024年6月21日付）



**社外役員比率
63.6%**

三桜工業の歴史①

自己変革と多様性が三桜のDNAです。

創業（戦前～戦後）

1939年に、「大宮航空工業株式会社」として創業

当社は「大宮航空工業株式会社」として創業しました。
中島飛行機株式会社（現在のSUBARU）向けに、「隼」や「疾風」をはじめとする航空機機体部品を製造していました。



戦後、焼酎の醸造や小型モーターの製造を開始、現在の「三桜工業」に改称

戦後、平和産業への事業転換を図り、現在の本社がある茨城県古河市がサツマイモの生産地であったことから、焼酎やワインの製造・販売に乗り出しました（1959年に撤退）。現在の会社名はこの焼酎のブランド名「三桜」から由来しています。

また、「ものづくり」の初心に立ち返り、東京通信工業株式会社（現在のソニーの前身）向けにテープレコーダー用小型モーターの製造を開始しました。



三桜工業の歴史②

自己変革と多様性が三桜のDNAです。

第2の創業期（グローバル事業拡大期）

自動車用配管事業を開始、グローバルに拡大

1962年に二重巻鋼管の製造技術を獲得し、冷蔵庫のワイヤーコンデンサー用配管の製造をスタート、1964年から自動車部品の製造に参入しました。それ以来、製品群、顧客を増やし、日系自動車メーカーの海外進出に合わせてグローバル拠点を増やすなど、自動車市場に軸足を置いてグローバル企業として成長いたしました。



第3の創業に向けて

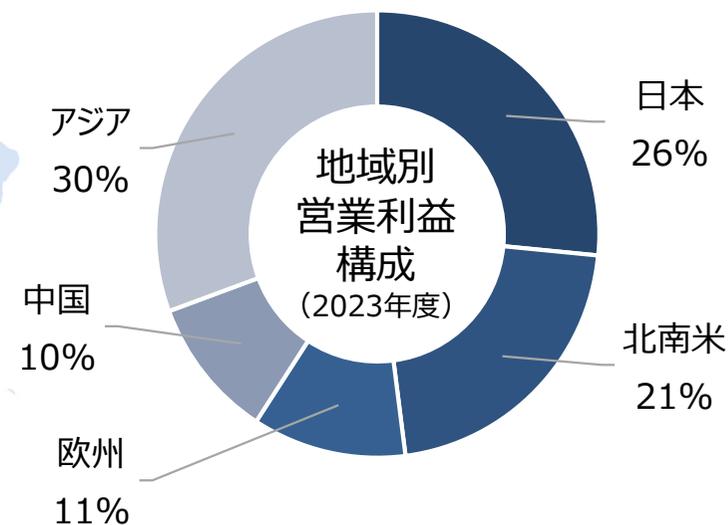
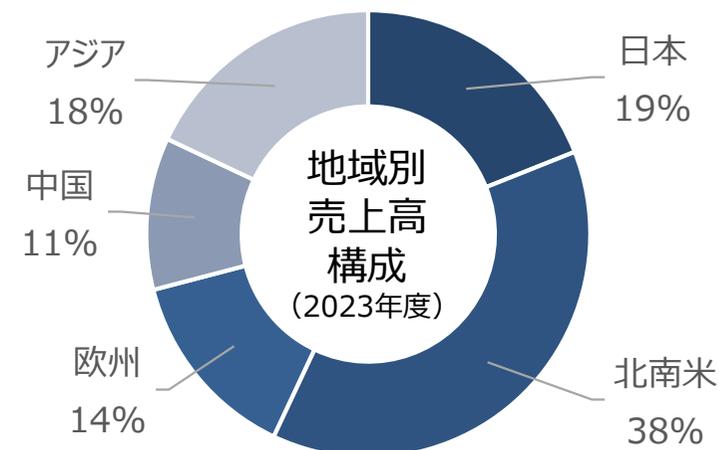
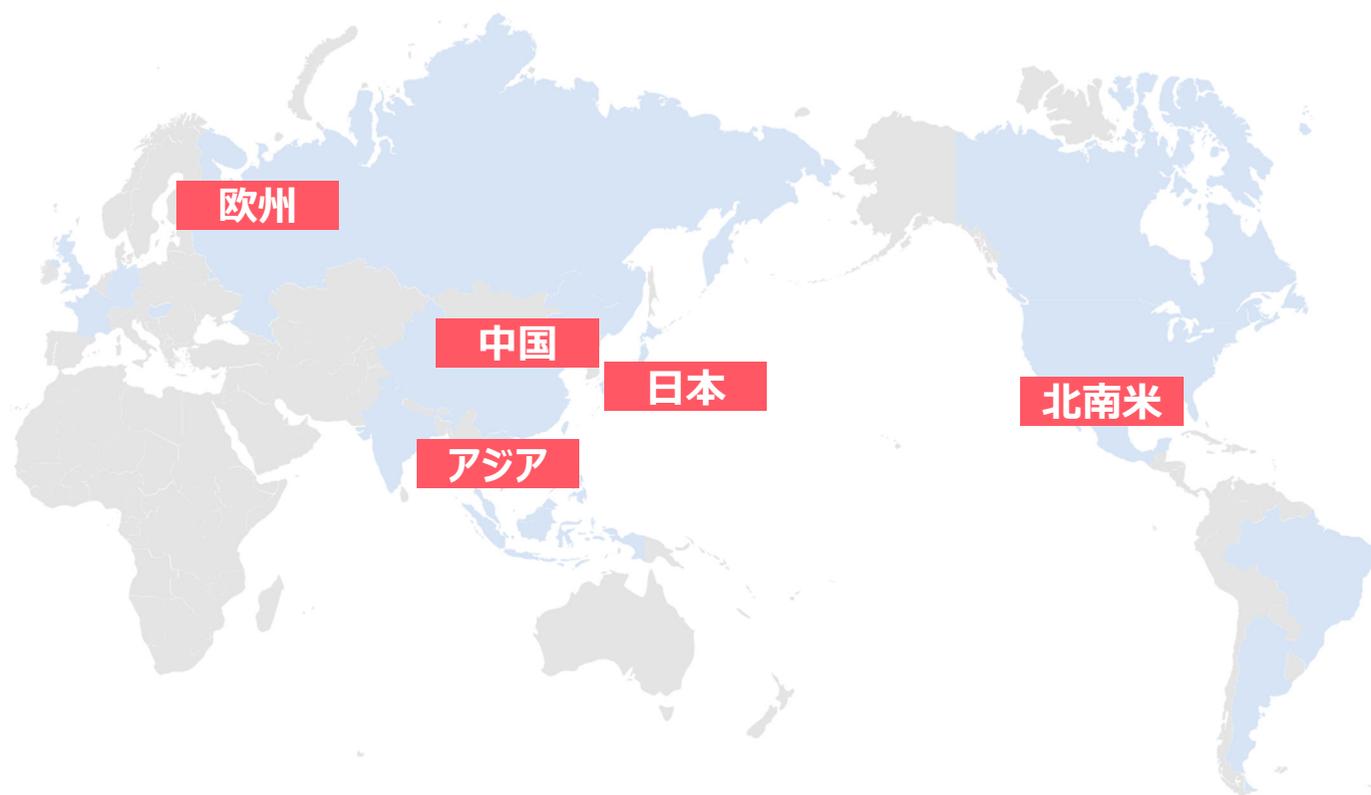
自動車以外の分野に積極進出

自動車部品事業以外でも、本田技研工業株式会社のASIMO（アシモ）への当社製ニッケル水素電池の採用、スーパーコンピュータ「富岳」への当社製の冷却水用樹脂配管の採用など、新たな分野で実績を残すようになりました。

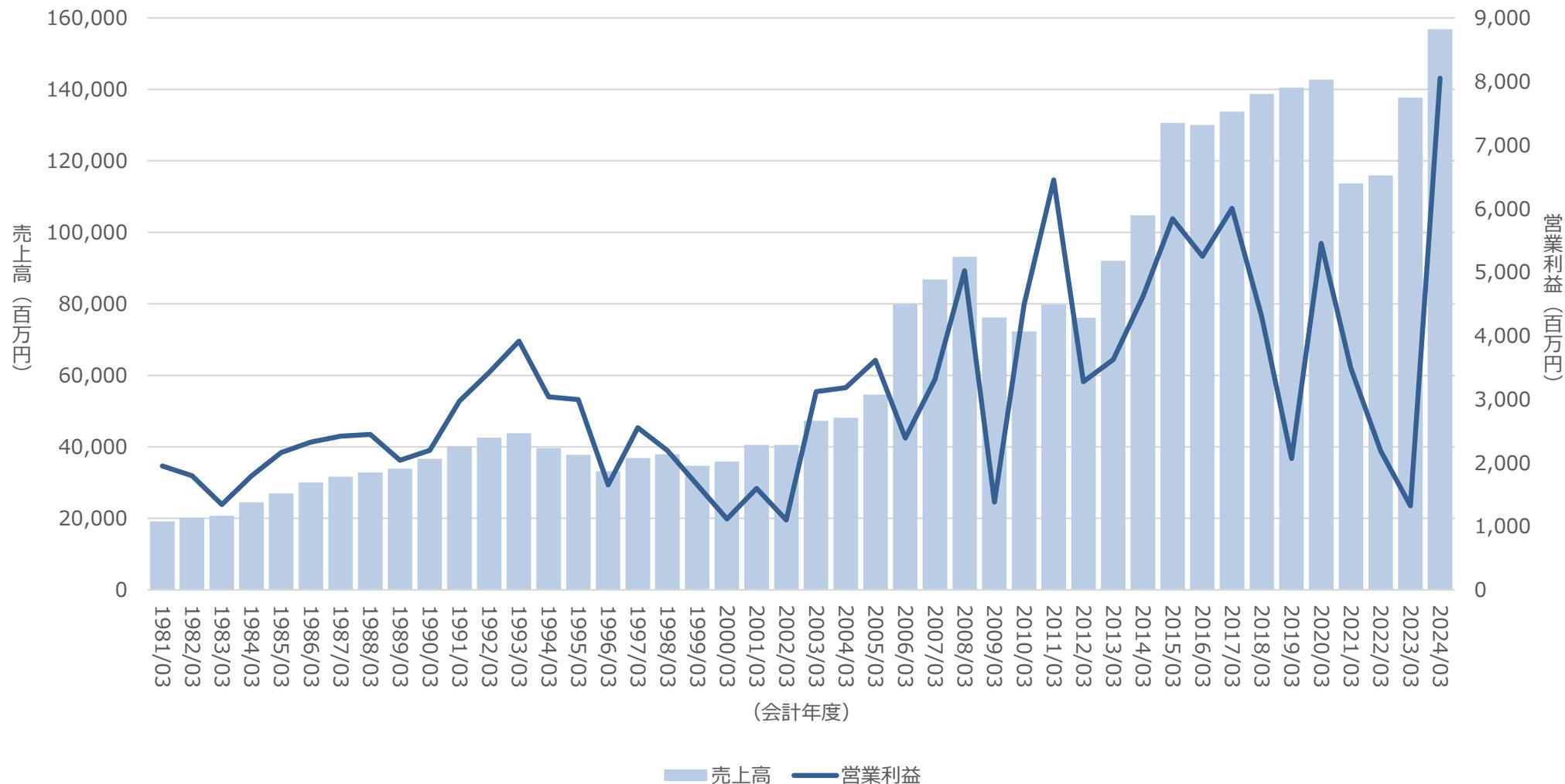
レジリエントなマルチポートフォリオの構築に向けて「第3の創業」とも言える大きな事業変革に果敢にチャレンジし、さらなる成長を実現させてまいります。



「日本」「北南米」「欧州」「中国」「アジア」の5つをセグメントとして、世界19カ国に展開しています。国内よりも海外の売上比率が高いグローバル企業です。



当社の業績は、**2000年前後の海外市場の拡大とその取り込みを狙った積極的な海外進出**に伴い、**着実に成長してまいりました。**



株価の推移

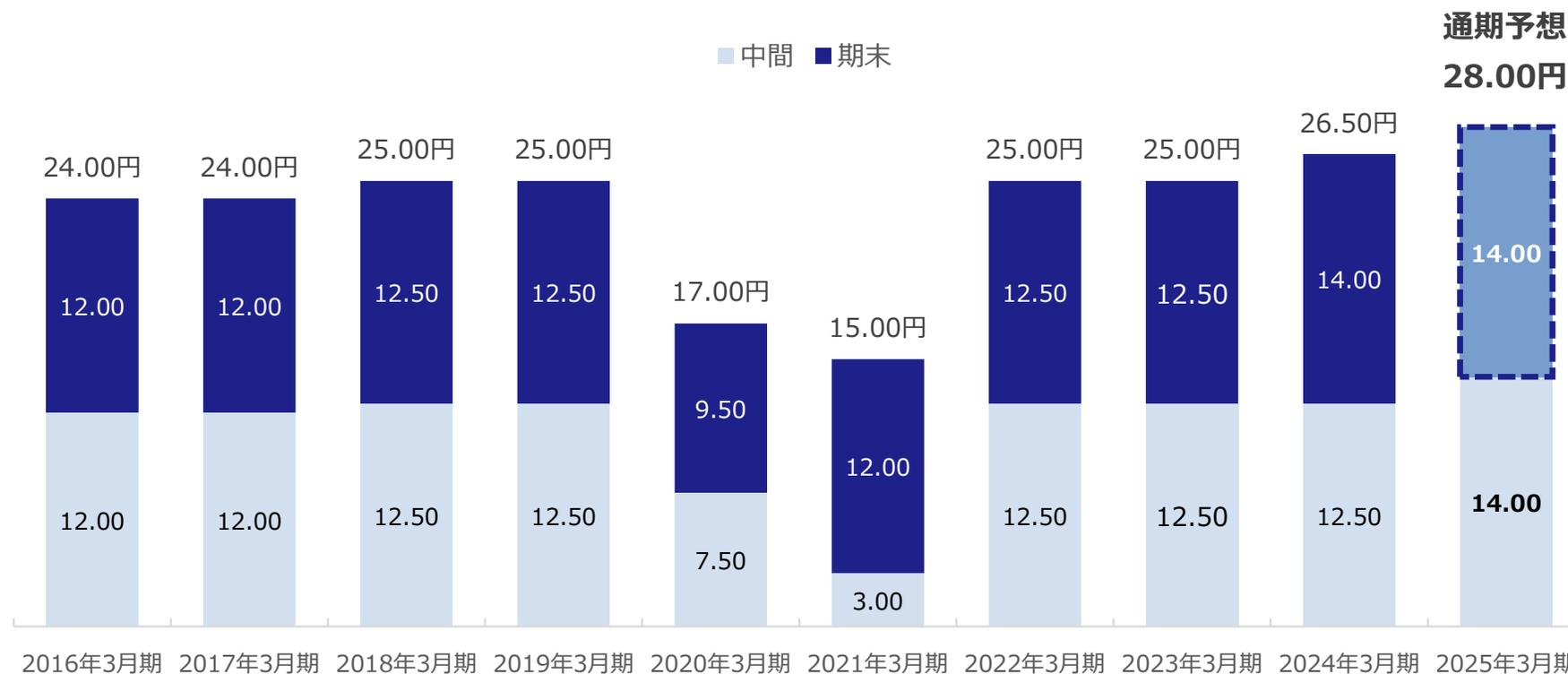
継続的な利益の向上とともに、ステークホルダーの皆様に対して可能な限り分かりやすい資本コストを意識したエクイティストーリーを発信し、対話をすることが重要だと考えています。経営・執行サイドで市場からの評価をもとにした議論を適宜行うなど、今後も株主・投資家目線の経営に努めてまいります。

配当利回り ^{※1} : 4.41%	株主数 ^{※2} : 18,438名
PBR ^{※1} : 0.53倍	期末配当基準日 : 3月31日
時価総額 ^{※1} : 235.7億円	中間配当基準日 : 9月30日

※1 2025年2月末時点の情報で算出
 ※2 2024年9月末時点



当社では、株主の皆様への適切な利益配分を経営の重要課題の一つとして位置づけ、日頃から当社を支えてくださっている株主や投資家の皆様への安定的な還元を実施してまいります。



(ご参考)

配当性向 (%)	-	81.4	18.4	-	28.4	15.0	89.6	-	22.6	-
DOE (%)	2.4	2.6	2.4	2.5	2.0	1.7	2.5	2.4	2.3	-

注：配当性向の「-」表記は一株あたり純損失を計上した期。2025年3月期の配当性向は現時点の業績予想に基づき「-」、同DOEも現時点では未定につき「-」。

「環境負荷低減に貢献」をマテリアリティの一つに据えて、従業員全員で環境保全活動に積極的に参加し、地球環境に調和した技術と製品の開発を推進します。

海外現地法人のISO14001認証取得

地球環境保護の取り組みの一環として、環境方針に基づき海外現地法人を含めたグループ全体でISO14001認証取得を推進しています。日本国内においては、2002年3月に認証取得して以降、ISO14001に基づく環境活動を継続しています。

取得済み ▷ 30拠点

TCFD提言への賛同と情報開示

気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）に賛同し、気候変動に係るリスクと収益機会について、当社ホームページや有価証券報告書、統合報告書に開示、更新を実施しています。



古い生産設備の更新

大量生産を主眼とした旧来の生産ラインから、少量多品種にも対応できる低負荷・高効率の生産ラインへ順次切り替えています。新たな生産ラインでは既存の設備よりも電力消費を抑制することができるため、CO₂排出量の削減に大きく貢献します。



電気自動車への当社部品の採用

電気自動車のクリーンな走りを支えることで、社会のカーボンニュートラルに貢献していきます。



NISSAN「SAKURA」



TOYOTA「bZ4X」

「地域社会との共創と成長」「働きがいと生きがいの両立」をマテリアリティに据えて、地域の人々が安心して働ける職場を作り、雇用の創出を通じて地域経済に貢献するとともに、事業活動を支える経営基盤である人財の育成を推進しています。

地域に根差した活動

世界19カ国で事業を展開し、その多くで郊外に拠点を置いている当社は、それぞれの地域に根を下ろして生活する人々との関係をしっかり築くことが、事業存続に必須であると認識しています。



茨城県古河市との包括連携協定を締結



JR古河駅前にシェアオフィス「COKOGA OFFICE」を開設



国内外地域における社会貢献活動

ダイバーシティ&インクルージョン

グローバル展開の結果、現時点で約8,000人近い社員が世界各国で三桜社員として働いています。また、日本国内では20カ国以上のグローバル人財が活躍中です。

性別、年齢、国籍、人種、民族、思想信条、障がいの有無、配偶者や子の有無などに関わらず、従業員の多様性を活かし、自由な発想や価値観の化学反応から生み出されるイノベーションに期待しています。

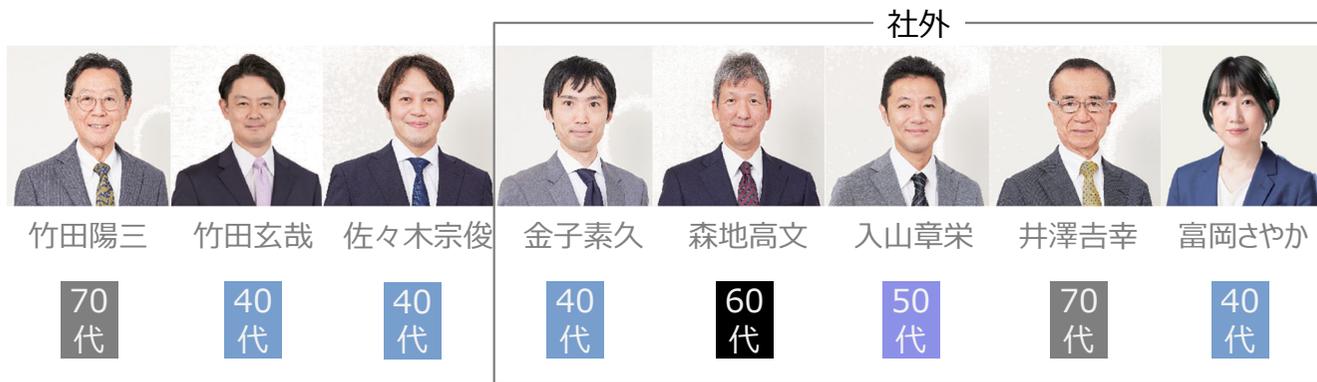
ものづくりの原点回帰

強固なものづくりの体制・マインドを築くために、2022年度より「現場研修」制度を導入しています。対象者は全ての従業員とし、COOを筆頭に、役員や部門長は毎年一回の現場研修を必須とするなど、多能工化とものづくりの原点を忘れない取り組みを行っています。



性別および年代別の多様性にも配慮しつつ、多様な分野で実績を積んできた人材を数多くマネジメントに受け入れ、業界の常識にとらわれない経営で不確実な環境下においても持続的な成長を目指しています。

取締役会の構成



監査役会の構成



社外役員は**過半数超え**

40代から70代の**幅広い年代**

入山取締役の発案により、泊まり込みの

「取締役会合宿」を毎年開催し、

中長期の戦略を徹底的に議論

1

会社概要

2

自動車部品事業の紹介

3

中期経営方針（2024年度▶2030年度）

4

【新事業】データセンター向け水冷/液冷事業について

5

質疑応答

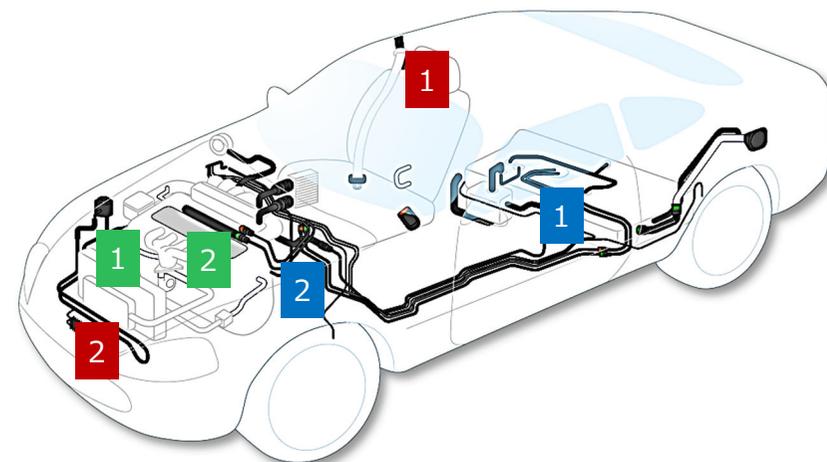
当社の製品をイメージしていただくために、初めに動画をご覧ください。

三桜工業株式会社@sanoh.youtube-ch

<https://www.youtube.com/watch?v=fuNXIFQqts>



世界中で走っている自動車の4台に1台に
 当社製品が搭載されています。
 当社は、主に「走る」「曲がる」「止まる」を担う
重要保安部品を手掛け、みなさまの安全と暮
 らしを支える**縁の下の力持ち**のような存在です。



主力製品

1. 燃料配管関連製品



1. 安全関連製品

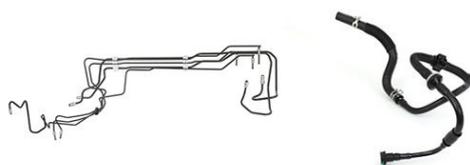


1. 熱交換関連製品



主力製品

2. ブレーキ配管関連製品



2. 環境関連製品



2. エンジン関連製品



その他



ブレーキオイルを各四輪に届ける**ブレーキ配管**、
ガソリンを燃料タンクからエンジンに届ける**燃料配管**が当社の主力製品です。

特に、ブレーキオイルが漏れてしまうと、
自動車の走行が止まらない▶命にかかわる重大な事故につながるため、
耐久性向上の観点から鉄の板を二重巻きにして、炉中ろう付けした「ダブルスチールチューブ」をブレーキ配管に使用しています。



「点」ではなく「面」で接着

特徴①

重要保安部品

人命にかかわる部品のため、高い品質基準が要求されます。ブレーキオイルやガソリンが“漏れること”は絶対に許されません。

特徴②

荷姿の大きな部品

車輻配管は燃料タンクからエンジンにかけてガソリンを送ったり、各四輪にブレーキオイルを送る機能を担うため、自動車メーカーへの出荷時は、非常に大きな荷姿となります。



特徴③

最後に設計される部品

数多くの部品がひしめく車の床下を縫うように配置される部品のため、自動車の仕様決定の最後の最後で車両配管の形状が決まることから、自動車メーカーのニーズに応じた迅速な設計対応が求められます。

特徴④

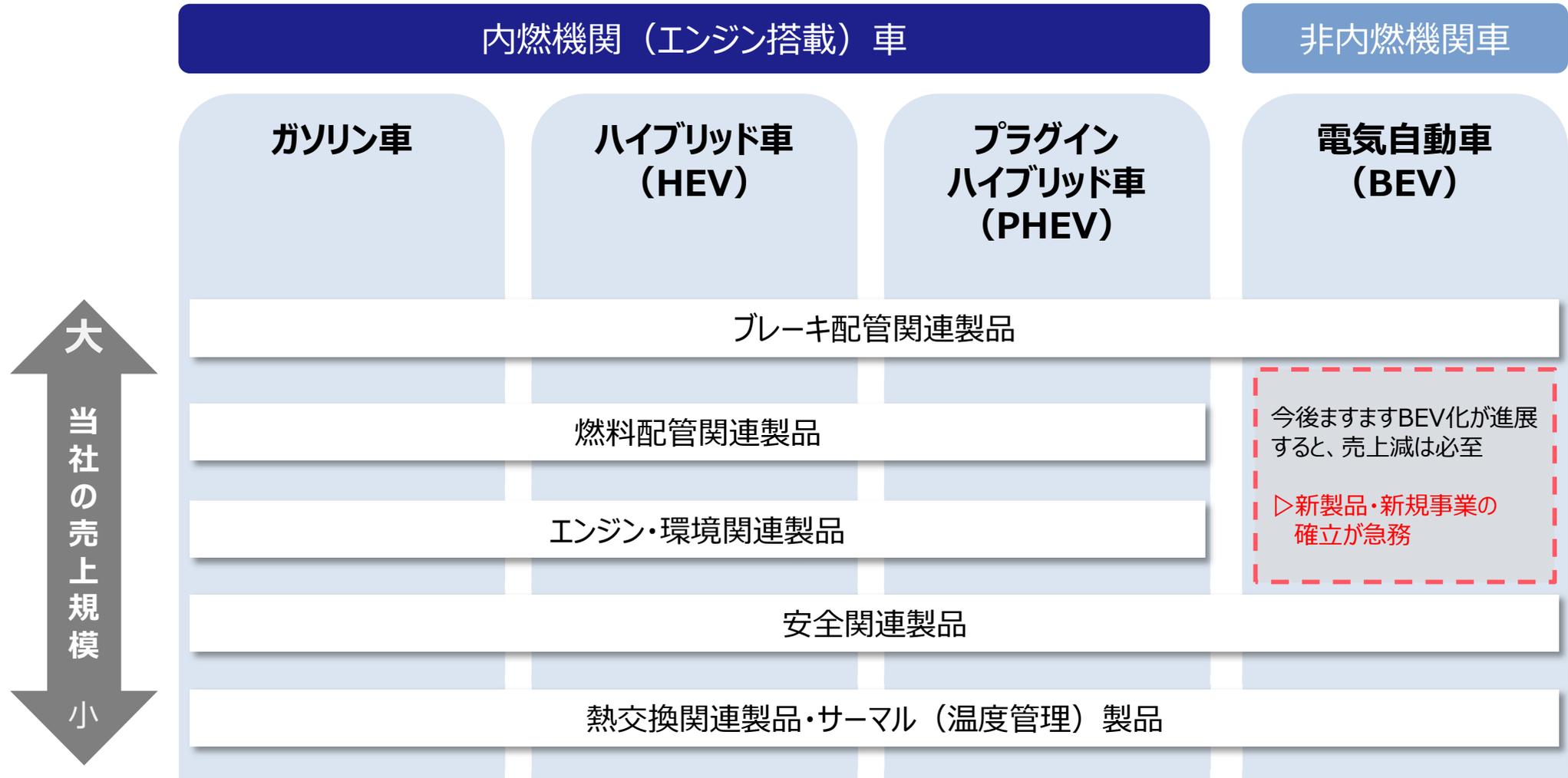
鉄と樹脂を使い分けた部品

主に鉄の板を二重に巻いて配管を製造（造管）しますが、道路に面しない自動車の内部には飛び石による破損懸念が少ないことから、部品の軽量化を重視して樹脂チューブを採用しています。

競争優位性

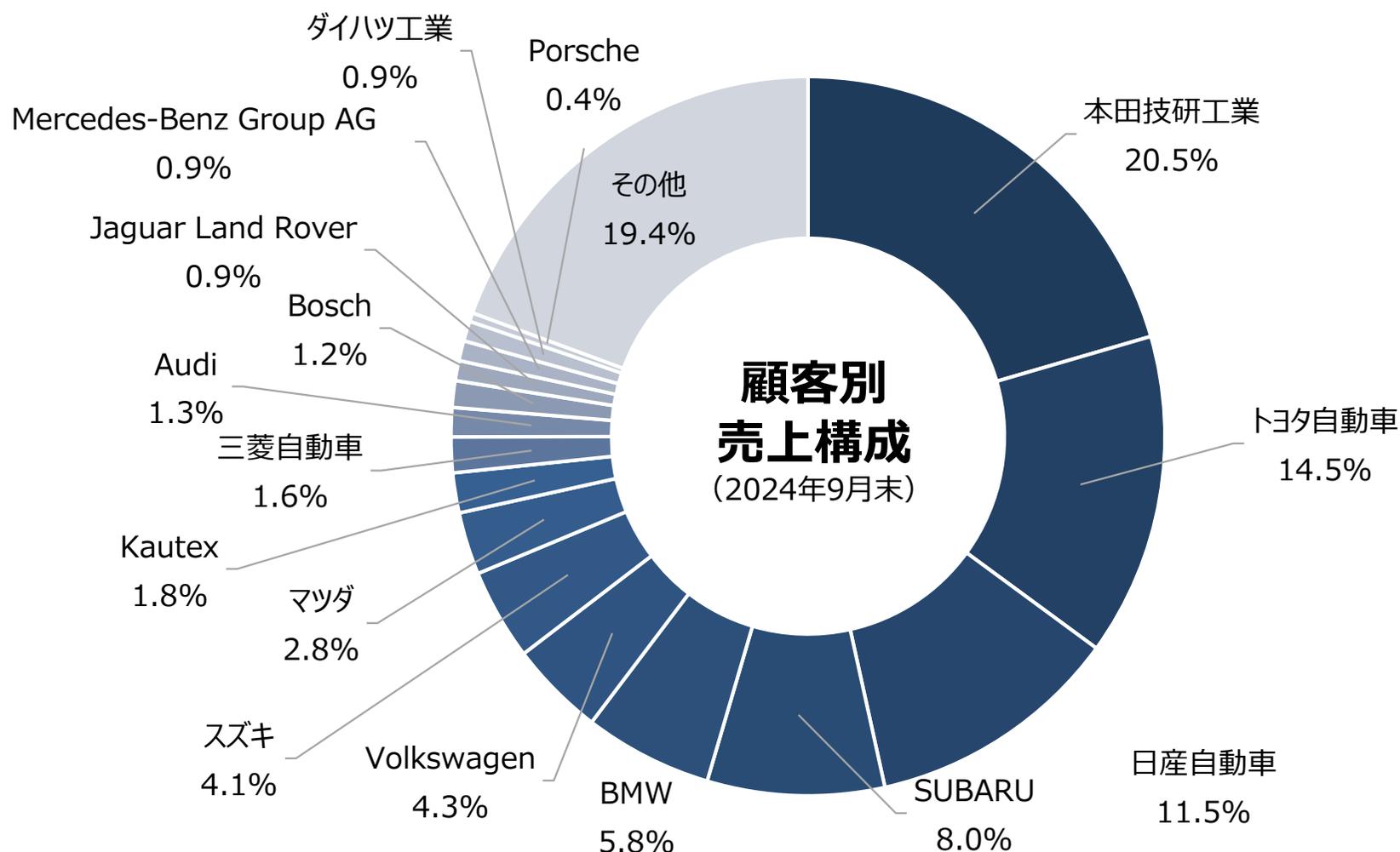
- 品質基準が厳しいため、参入障壁が高く、**グローバルで5社寡占**（当社+国内2社+海外2社）の状況のため、**価格交渉がしやすい**環境にあります。
- 顧客の傍に製造拠点を構えているため、ゲストエンジニアとして内部に迎え入れられるなど**顧客に密着し、QCD（品質・コスト・デリバリー面）で成果**を上げて、**顧客からの信頼と後継モデルの受注を獲得**しています。
- 人命にかかわる付加価値の高い製品のため、また顧客の傍で供給していることから、**転注リスクが低い**環境にあります。
- 鉄と樹脂、異なる素材を加工し接合する**「異材接合技術」が強み**です。また、樹脂の採用によって軽量化が図られ、**燃費の向上に寄与**しています。

足元のBEV化進展の減速によって、特にHEVやPHEVの需要が高まっていますが、長期的にはBEVが主流になる見通しであり、現在の当社の事業ポートフォリオでは売上減は必至です。市場ニーズの不透明な動向にも応えられるレジリエントな製品群の構築とともに、新事業の確立に注力しています。



当社は、特定の自動車メーカーの資本系列に属さない**独立系の自動車部品メーカー**として、顧客に偏りなく横断的に事業を展開しています。

また、完成車メーカーだけでなく、当社が二次サプライヤー（Tier2）の立場で、一次サプライヤー（Tier1）への部品供給も行っています。



1

会社概要

2

事業紹介

3

中期経営方針（2024年度▶2030年度）

4

【新事業】データセンター向け水冷/液冷事業について

5

質疑応答

中期経営方針の全体像①

既存事業の自動車部品事業では、**サンオー・ラストマン・スタンディング戦略（残存者利益獲得戦略）**を遂行し、2030年度までに自動車配管市場でグローバルシェアNo.1を目指します。
 さらに、2つのトランスフォーメーションを通じて、**レジリエントなマルチポートフォリオの構築**を目指し、2030年以降もサステナブルに成長し続けてまいります。

顧客に必要とされる限り、
 最後まで撤退しない
**「サンオー・ラストマン・
 スタンディング戦略」**を遂行



**残存者利益（市場占有率の上昇・
 価格決定権の確保）**を獲得し、
グローバルシェアNo.1へ

自動車部品事業
 内燃



新事業
非内燃



**レジリエントな
 マルチポートフォリオの構築**

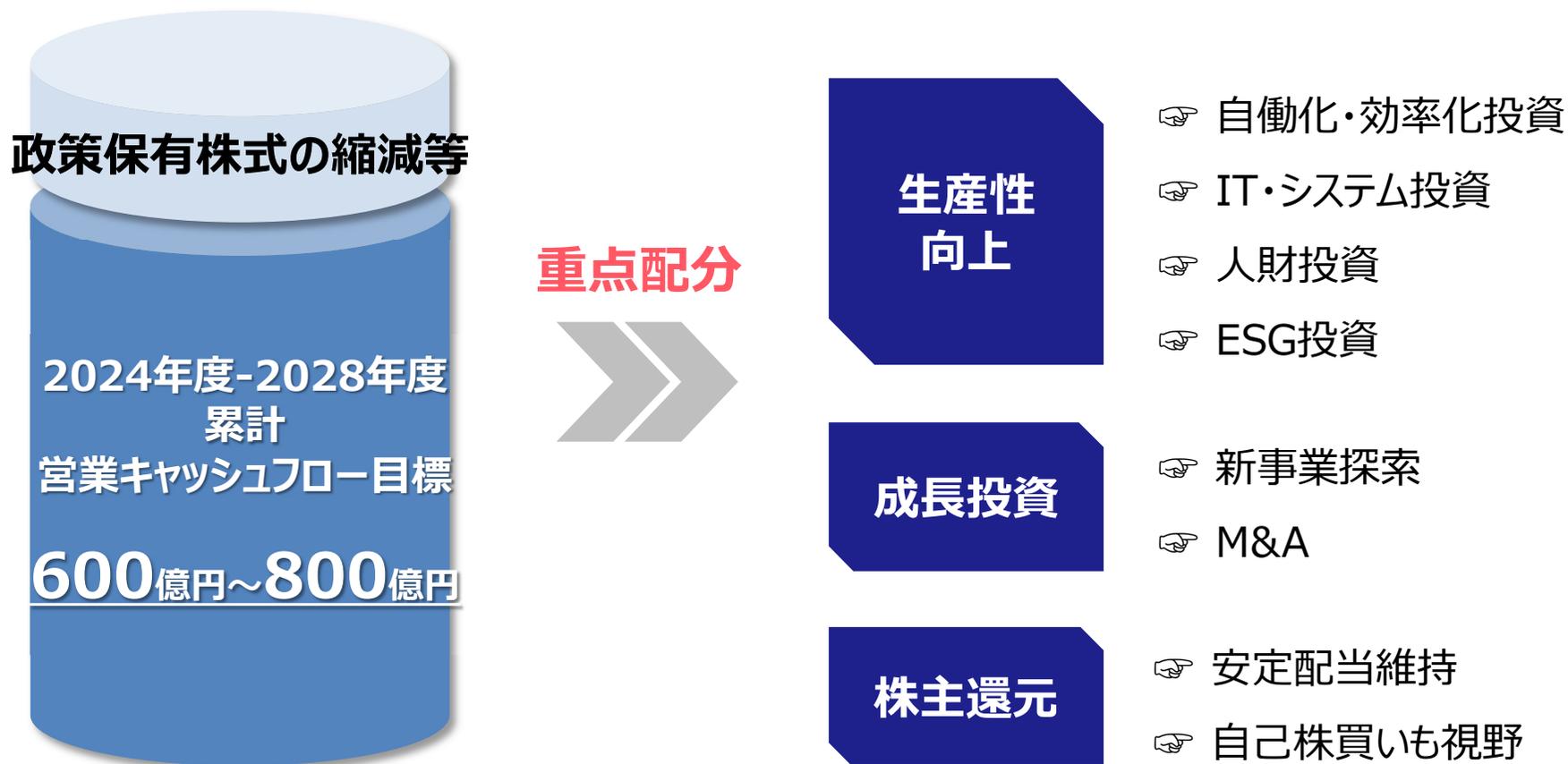
中期経営方針の全体像②

2021年度以降、投資を抑制して事業基盤の安定化に傾注していました（第1フェーズ）が、今後は積極的な投資の実行により、将来への種蒔きと仕込みを進めていきます（第2フェーズ）。その後の2年間で、その成果を刈り取り、投資の回収を図ることで一気に成長（第3フェーズ）し、2030年度の連結売上高2,000億円、ROE15%以上の目標の達成を目指します。

2030年度までのロードマップ(イメージ)と定量目標

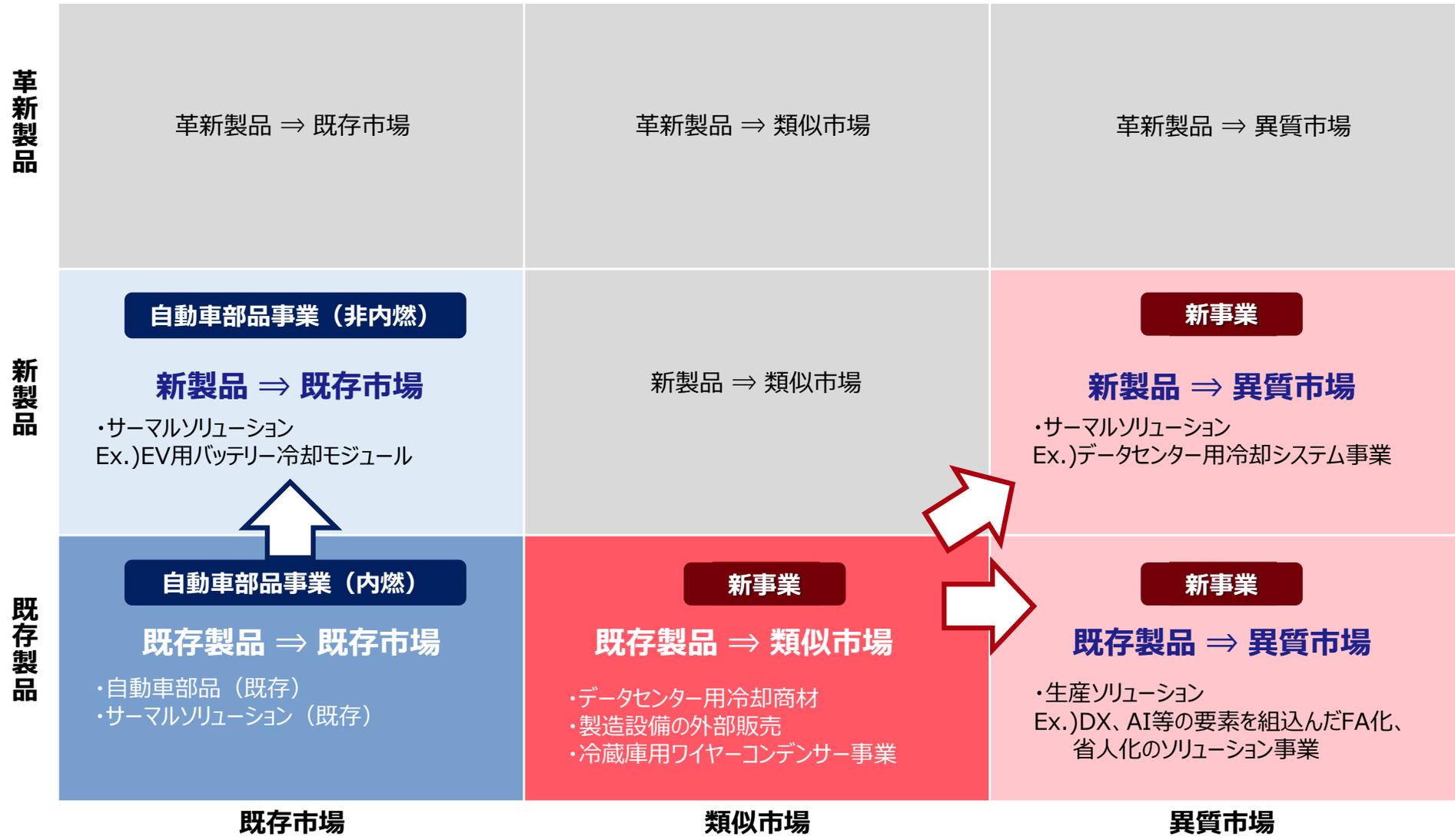


既存事業の早期のキャッシュカウ化による営業キャッシュフローの拡大によって新規投資予算枠を拡充し、「生産性向上」「成長投資」「株主還元」の3つのテーマに対して資金を重点配分する計画です。



中期経営方針で主に注力する事業領域と今後の事業構想

新事業の柱として「データセンター向け水冷/液冷事業」「生産ソリューション事業」「冷蔵庫向けワイコン事業」を据えて、将来的にシステム化やソリューションビジネス化を構想しています。



足元の業績推移（2024年度第3四半期時点）

コロナ禍以降、自動車生産における半導体不足による減産影響やサプライチェーンの混乱により業績が低迷傾向にありましたが、2023年度はインフレ影響の価格転嫁と稼働状況の安定化に伴い採算性が向上し、過去最高益を記録しました。2024年度は、前年比ほぼ横ばいの見通しでしたが、2025年2月に発表しました第3四半期決算において、業績を下方修正いたしました

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (期初予想)	2024年度 (2025.2.7修正予想)
売上高	113,657	115,940	137,692	156,814	162,000	160,000
営業利益	3,486	2,183	1,321	8,053	8,000	5,000
経常利益	3,766	2,584	1,490	7,296	7,000	4,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,630	1,009	△ 907	4,216	4,200	0

セグメント別の足元の事業環境と見通し

事業環境は不安定に推移しており、当社のビジネスもセグメント別に強弱が鮮明になっています。セグメントごとに、市場の中長期的な成長性に応じて重点投資やレガシーカット、トランスフォーメーションを果敢に実行し、中長期の時間軸での成長を実現させてまいります。

足元の事業環境と注力方針、今後の見通し

日本		重点投資地域	事業環境は安定的に推移。 三桜本体として、グループ会社への成長投資や賃上げを担う点が負担になるものの、国内事業所においても生産設備の自動化などの効率化投資を計画。
北南米		重点投資地域	事業環境は引き続き好調に推移。 米国トランプ大統領の関税政策を不安視するも、引き続き旺盛な自動車需要や新規顧客からの受注が決まるなど、当面堅調に推移する見込みであり、米国とメキシコで能力増強の投資を計画。
欧州		構造改革地域	事業環境は低調に推移。 環境規制により内燃機関車への回帰に踏み切れない不透明な事業環境が続く見込みであり、拠点の統廃合と人員削減によるスリム化を行うことで来期以降の採算性の改善を図る。
中国		トランスフォーメーション地域	事業環境は低調に推移。 日系メーカーの不振と中資系メーカーの躍進が継続する見込みであり、中期的に縮小均衡を図る計画。なお、新事業の「データセンター事業」「生産ソリューション」の拡大先として有望視。
アジア		重点投資地域	事業環境は安定的かつ好調に推移。 減速気味のタイを、好調なインドがカバーをするなど、全体的には今後も堅調に推移する見込み。主に伸び盛りのインドで能力増強の投資を計画。

1

会社概要

2

自動車部品事業の紹介

3

中期経営方針（2024年度▶2030年度）

4

【新事業】データセンター向け水冷/液冷事業について

5

質疑応答

データセンター向け「水冷/液冷システム」とは

データセンター内の機器を効率的に冷却するために**冷媒**を使用する冷却技術です。空冷システムと比べて高い冷却効率を提供し、エネルギー消費を抑えることができるため、特に大規模なデータセンターで採用されています。

今後ますます、データセンターの消費電力は**急増**
チップの性能に比例してチップの発熱も**急増**

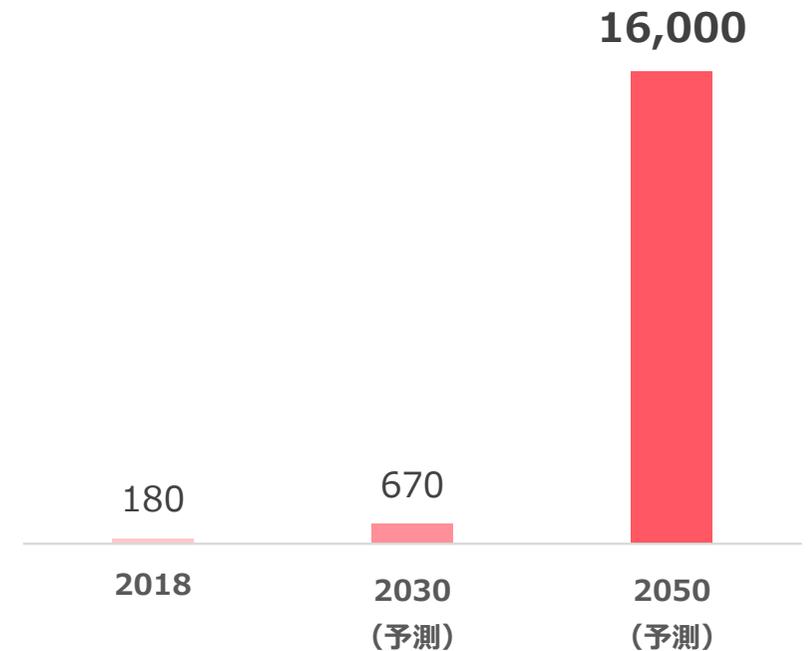


高効率かつ省エネの**水冷/液冷システム**のニーズが拡大



低効率かつエネルギー消費が膨大な**空冷システム**は比較的発熱が少ない小規模なデータセンターでの導入が継続

データセンター電力消費量(TWh)



出展：「データセンターの敵、サーバの発熱と戦う」(TDK株式会社)
(https://www.tdk.com/ja/featured_stories/entry_015.html) を元に当社作成

データセンター事業者（主に日本）の懸念



当社の自動車部品事業の強み

- ➡ 自動車部品事業において、**過酷な環境下でもガソリンやブレーキオイルを漏らすことが許されない「重要保安部品」**を、**長年手掛けてきた実績**
- ➡ 樹脂の「**形状記憶性**」と「**軽量性**」を活かして、ゴムホースよりも**取り回しの良い、より軽量な冷却システムの構築が可能**

2020年、当社の「冷却水用樹脂配管」が、**ハイパフォーマンスコンピュータ「富岳」**に採用されました。



樹脂マニホールド



樹脂チューブ+コネクタ

採用理由

- ➡ 純国産の前提上、国内メーカーで国内からの供給が可能
- ➡ 長年、自動車業界で“漏れない”重要保安部品を手掛けてきた実績と品質保証能力

当初の仕様検討の際、当社の試作品は**ハイスペックという評価**

これまでの取り組み状況

2020年の「富岳」への採用をきっかけに、水冷/液冷に関する研究開発を進め、2024年2月の「リアドア式水冷装置」の開発以降、本格的にデータセンター市場への参入を加速させます。展示会にも積極的に出展し、国内外問わずさまざまな業界の関連企業との協業や関係強化を図っている最中です。

2020年



スーパーコンピュータ「富岳」に採用

参考リンク：<https://pdf.irpocket.com/C6584/xl10/WMdW/x7sd.pdf>

2022年



「富岳」のテクノロジーをクラウド型で提供する「Fujitsu クラウドサービス HPC」に採用

参考リンク：<https://pdf.irpocket.com/C6584/wigp/KYNQ/Zzx8.pdf>

2024年2月



国内メーカー初「リアドア式水冷装置」を開発

参考リンク：<https://pdf.irpocket.com/C6584/KKjE/nvyI/DChz.pdf>

2024年11月



「リアドア式水冷/液冷装置」の新機種を開発

参考リンク：<https://pdf.irpocket.com/C6584/Bv1s/iDsM/D1kh.pdf>

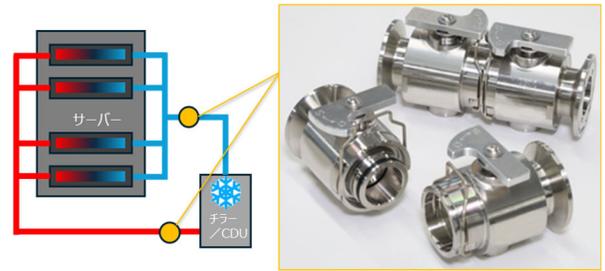
2024年11月

NTTデータ様・日比谷総合設備様が検証施設「Data Center Trial Field」の共同検証に参画

参考リンク：<https://pdf.irpocket.com/C6584/Bv1s/FoJA/v900.pdf>



検証施設の室内イメージ



当社のバルブ機能付き継手が常設

当社の水冷/液冷製品をイメージしていただくために、初めに動画をご覧ください。

三桜工業株式会社@sanoh.youtube-ch

<https://www.youtube.com/watch?v=52v09lz6QGo>



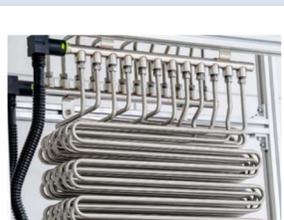
現在は間接水冷（リアドア式）と直接水冷/液冷（DLC式）に参入し、将来は液浸冷却事業への参入も検討しています。
 また、部品単体では「バルブ機能付き継手」の供給を視野に入れています。



空冷

既存の空冷にリアドア式を後付け可能

間接水冷 (リアドア式)



パイプタイプ



フィンパイプタイプ

直接水冷/液冷 (DLC式)



クーリングプレート

液浸

将来的な参入を検討

水冷/液冷共通部品



止水機能付きコネクター



バルブ機能付き継手



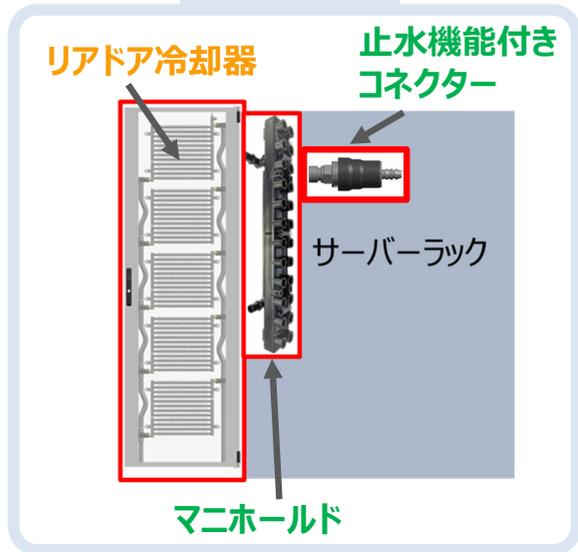
マニホールド



樹脂チューブ ASSY

リアドア式：サーバーラックの背面扉（リアドア）に冷却機構を組み込むことで、温まった空気を水冷で間接的に冷却する
 DLC式：Direct Liquid Coolingの略で、チップの上に特殊な冷却プレートを取り付け、冷却液がチップ表面を流れることで熱を直接吸収し、冷却する。
 液浸：コンポーネントを特別に設計された冷却液に浸して直接冷却する。

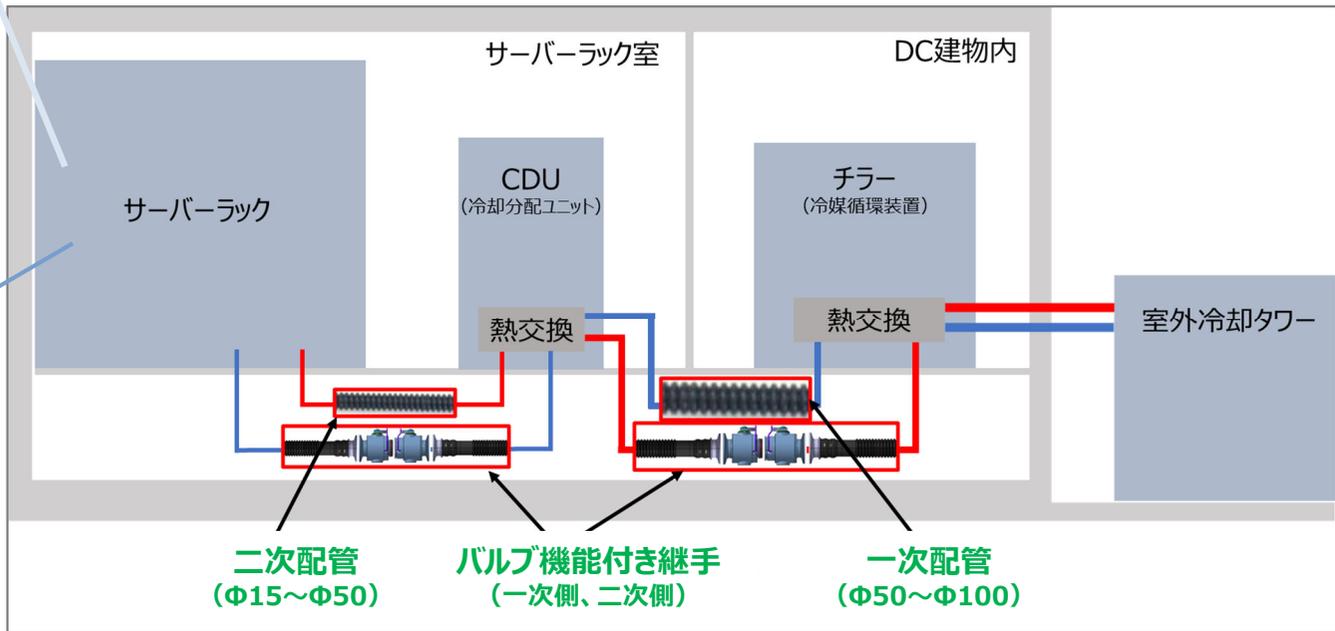
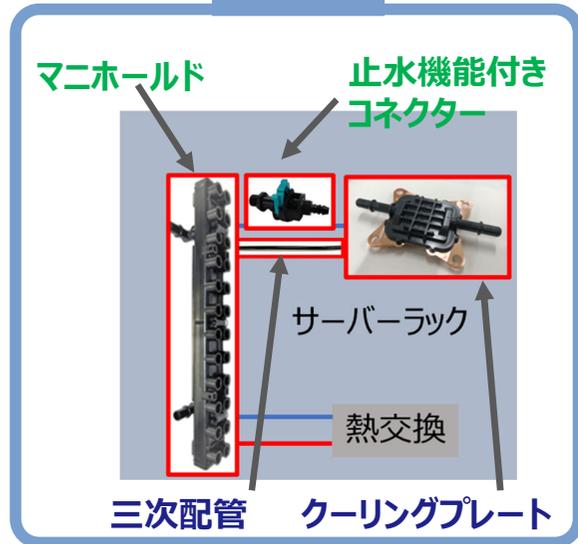
リアドア式



リアドア式（間接）またはDLC式（直接）の採用によって、**サーバーラックの熱負荷をより高効率に除去**することができます。
 また、水冷/液冷システムの周辺またはデータセンター設備の一次側、二次側、三次側の配管・継手を提供します。

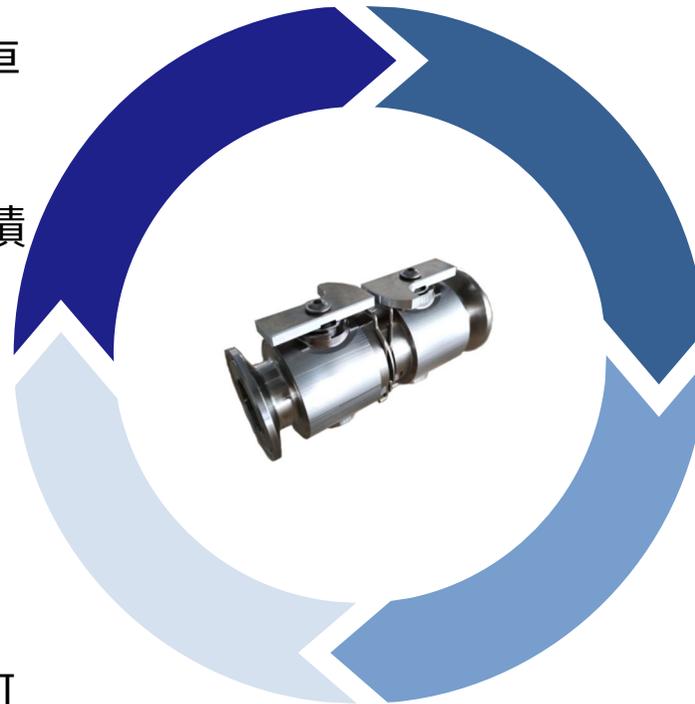
オレンジ字：リアドア式製品
 青字：DLC式製品
 緑字：共通部品

DLC式



技術・品質

- 👉 厳しい品質が求められる自動車業界における長年の実績
- 👉 “漏れない”品質
- 👉 大量生産時の均一品質の実績
- 👉 自動車業界で培った「異材接合技術」



グローバル生産体制

- 👉 既存の海外拠点で製品供給可
- 👉 多様な供給源の確保
- 👉 海外でのリアルタイムの情報入手・共有

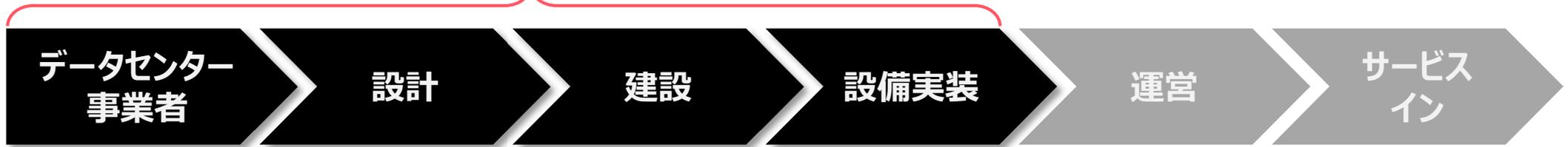
開発・投資の抑制

- 👉 既存の技術や設備を転用
- 👉 自動車用の既存製品を転用

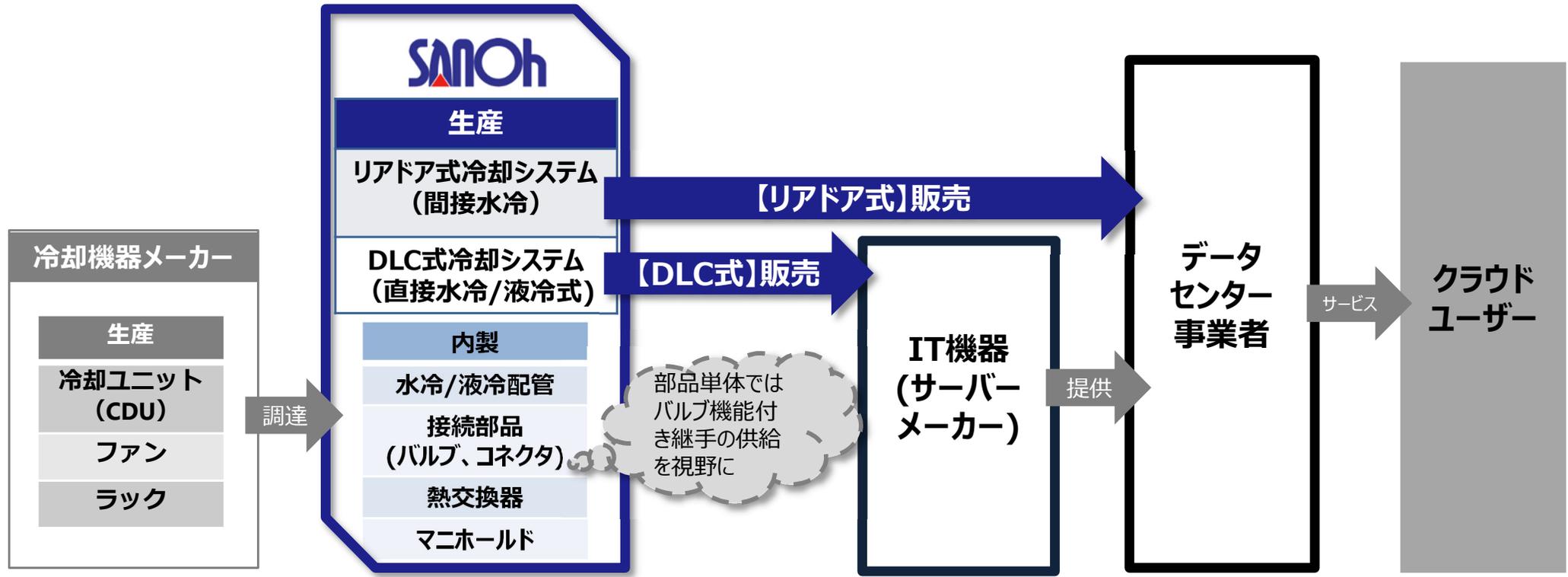
高い収益性

- 👉 自動車用の既存設備や製品を転用することで固定費を抑制
- 👉 “漏れない”付加価値を武器に、薄利多売としない

データセンター建設における仕様決めから関与し、設備実装までを担うことを視野に入れています。

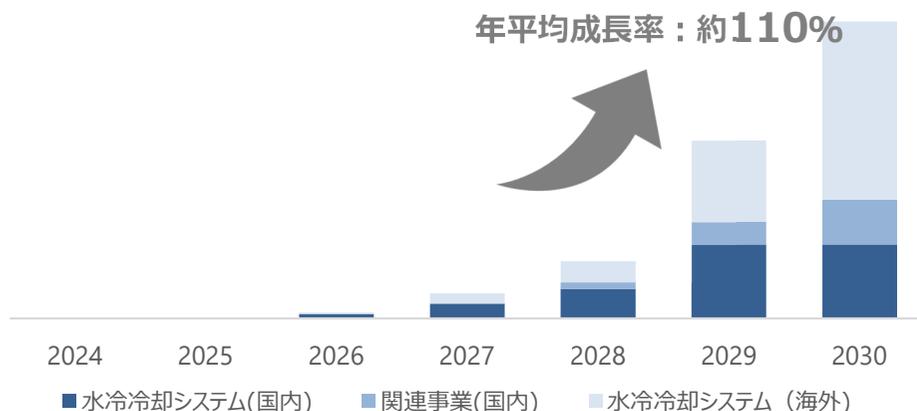


主にデータセンター事業者・IT機器(サーバーメーカー)が想定顧客になります。(冷却方式に拠る)

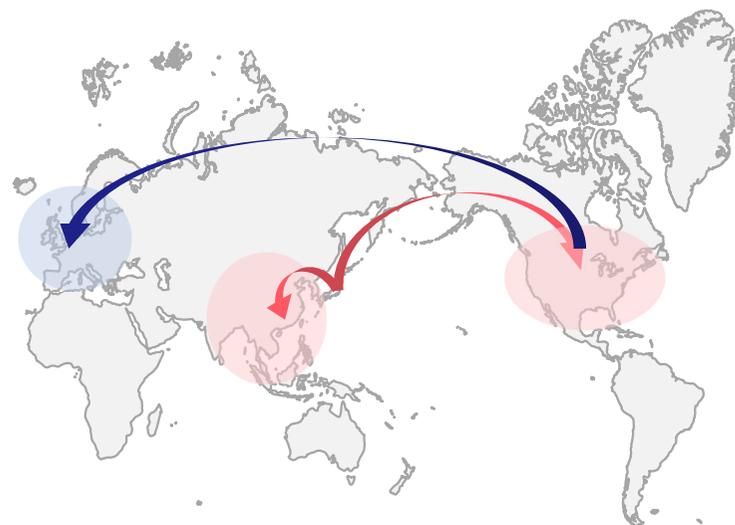


まずは国内を中心に部品、システムの生産・販売の確立を目指し、北米・アジア地域のマーケティング・開発体制の構築も加速させてまいります。

DC向け水冷/液冷システム事業売上目標イメージ



日本▶北米・アジア▶欧州への展開を計画



現在、足元で **さまざまなメーカー・事業者との協業や試作受注、営業・提案活動** を鋭意進めています。
受注に至った際は、お客様からの許可が得られた範囲で情報開示を行いますので、今しばらくお待ちください。

日本データセンター協会が主催する「Data Center Japan 2025 ～日本データセンター協会15周年記念イベント～」に出展いたします。

「バルブ機能（止水機能）付き継手」ならびに各種インターフェイスの開発品、その他各種製品を展示いたしますので、ぜひお立ち寄りください。

会期：2025年3月18日（火）～3月19日（水）10:00 - 17:00
＜展示・セミナーとも無料（公式サイトより事前登録制）＞

会場：東京都立産業貿易センター浜松町館4F、5F
〒105-7501 東京都港区海岸1-7-1 東京ポートシティ竹芝

公式サイト：<https://f2ff.jp/event/dcjapan>



ブース番号 5C16	三桜工業	スポンサー
	<p>水冷、液浸のシステム構築、運用には液体配管の工事、保守作業が必要となる中、データセンター内の液漏れのリスクはデータセンター事業者、施工会社他関係事業者の大きな懸念材料となっています。またCDUとの接続部にはメーカー毎で仕様の差異があり、施工品質の標準化も課題です。当社ではこれらの問題に対応可能な「バルブ機能（止水機能）付き継手」と各種インターフェイスの開発品を展示致します。</p> <p>その他ではCPU、GPU冷却用の水冷クーリングプレート、水冷サーバーとの配管接続部で使用される液だれ量が0.03cc以下のノンスピルコネクタ他も展示致します。</p>	
イベント名 Data Center Japan - 日本データセンター協会 15周年記念イベント -		
データセンターサービス ファシリティ関連製品/サービス		

このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。